

# だっこだっこあみだっこ



こども仏事お作法教室  
～ありんのつかいかた～

京のイクメン

ぼく・わたしを育てるほとけのことは  
智慧(ちえ)

—かしこいだけではだめ、  
やさしいだけでもだめ—

平成29年

3・4月号

東山浄苑東本願寺発！ママと子どものフリーペーパー **だっこだっこあみだっこ**です♪  
あみださまは、おかあさんの「だっこ」のように、あたたかくわたしたちをみまもって下さっている—  
そのことに気づいたとき、わたしたちは安心して、自信をもって生きていけます。

未来をになう子どもたちは社会の宝もの。その子どもを育てる**子育て**は、**とても尊い大事な**  
**こと**です。いい子になってほしい、と思いながらも、ほんとうのやさしさ、かしこ  
**さ、強さってなんだろう？**悪いことをしたらどう叱ったらいいの？

—ほとけさまの教えが、悩めるパパ、ママのともしびになりますように。

ぜひ、ご家族みなさんでお読みください♪

FREE Paper

# ぼく・わたしを育てる ほとけのことば

今月のことば：「智慧(ちえ) かしこいだけではだめ、やさしいだけでもだめ」

仏教には、今のわたしたちにとって、あたたかなともしびとなることばがたくさんあります。

「ほとけのことば」から、わたしたちの日々のくらしの目標をかんがえてみましょう♪

## はじめに ～「智慧」と「知識」～

今回のテーマは「智慧(ちえ)」です。同じよみの「知恵」、おばあちゃんの知恵袋、とかそういうイメージを持っている人が多いでしょう。似た言葉で「知識(ちしき)」という言葉があります。しかし、「智慧」と「知識」は、実は全くちがう意味です。

「智慧」は「知識」とどちらがうのか、「智慧」とはどういうことなのか、いっしょに考えてみましょう。

## 人間の「知識」

私たち人間は、わからないことを勉強したり、覚えたり、研究して解明したりすることで、「知識」を増やし、どんどんかしこくなっていきます。皆さんも、一年前の自分と今の自分を比べてみたら、知っている漢字や言葉が増え、むずかしい算数もできるようになって、成長していると感じませんか？



人間には、「かしこくなりたい」「知らないことを知りたい」というきもち(欲望)があって、その思いを力にして、今の文明社会を作り上げてきました。科学の発達した今日、「すべてのものごとは科学的に証明できる」「人間にわからないことはない」と多くの人が思っています。はたして本当にそうでしょうか。

たとえば、最近の天気予報は昔と比べてよく当たるようになったとはいえ、それでも思わぬにわか雨に降られることがあります。天気にかぎらず、自分の明日がどうなるのかさえ、誰にもわかりません。いきなり地震がおきたら、運悪く事故に巻き込まれたら…。わたしたちは、どんなに「知識」をもって、明日のことはわからないし、こうした不安から逃れることはできないのです。

## わからないことがわからないわたしたち

知識を増やし、科学が進んだことで、今は夜でもこうこうと電気が輝いて明るく、闇なんてないかのようですね。しかし、本当に知りたい「明日自分はなるの?」「不安はどうしたらなくなるの?」ということには、「知識」は答えてくれません。

お釈迦さまは、わたしたち人間の悩みや苦しき、不安は、「無明(むみょう)」のために起こる、と説き明かされました。「無明」とは「明かりの無いこと」、つまり「無知」であることを言います。自分が闇の中にも気づかない、わからないことに気づいていない、それが「無明」とおっしゃった私たち人間の姿です。



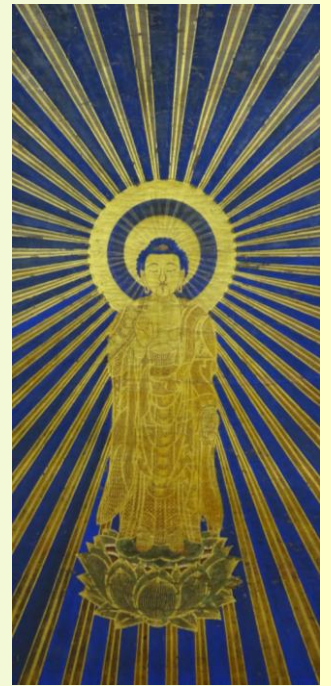
## 「智慧」と「慈悲」の光

お寺やお仏壇の阿弥陀（あみだ）さまのお姿を思い出してみてください。まぶしい金色の光が背中からいくつも伸びていますね。この光は、ただきれいに見せるためではありません。阿弥陀さまがまだ修行中の時、仏になるために48個の誓い（四十八願）を立てられましたが、この光明は48本描かれています。

そもそも、阿弥陀さまの「阿弥陀」とは、サンスクリット語の「アミターバ」「アミターユス」を漢字にしたもので、「はかりしれない光」「無限の命」という意味です。

親鸞聖人は、阿弥陀さまを「智慧のひかり」と表現されました。明かりの無い、まっくらな闇の中にいるわたしたちをあわれに思って（慈悲【じひ】）、救おうと包み込む光、それが阿弥陀さまの「智慧」なのです。そして、阿弥陀さまの光に気づいたその時、私たちは、それまで自分が闇の中にいたこと＝何も気づいていない自分自身を自覚することができます。

さらに、この光はあらゆる壁をつきぬけ、すべての人間に降りそそいでいます。お金持ちも貧乏な人も、かしこい人もおろかな人も関係なく、本願をたのみとする人を、阿弥陀さまは平等にすくい取って、一人もらさず必ず救うと誓ってくださいました。これは、阿弥陀さまの「慈悲」のはたらき——苦しむ私たちを何とかして救いたい、と願うところによるものです。阿弥陀さまの「智慧」は「慈悲」から生まれ、「慈悲」によって私たちのもとに届けられています。「慈悲」のない「智慧」はありません。また反対に、「智慧」のない「慈悲」というのありません。かしこいだけじゃない、やさしいだけじゃない。それが阿弥陀さまの光のおはたらきです。



## ほんとうのかしこさ、やさしさってなんだろう？

私たちはたくさん「知識」を得てかしこくなると、「ぼくは何でも知っているぞ」「わたしは一人でなんでもできるよ」とうぬぼれてしまいがちです。本当はまだわからないこと、できないことなんて山ほどあるのに、わからないことに気づくことができないのです。

でも、私たちはみんな平等に、誰もが阿弥陀さまの「智慧」と「慈悲」の光に抱かれています。阿弥陀さまは、私たちがすぐうぬぼれてしまうこと、無知であることも、ぜんぶわかって下さっているのです。

そのことに気づいて感謝できたら、けんきょな気持ちで、自分の得意なことをほかの人のために使いたい、ともだちと助け合いたいと思えるようになります。

ほんとうの「かしこさ」は、ものをよく知っているとか、テストで100点ばかりとっているとか、そういうことではないのです。阿弥陀さまの光をはじめ、自分を取りかこむたくさんの「恩」「おかげさま」に気づき、感謝すること。まわりのおともだちのことを考えて、やさしいきもちをもって、お互いに助け合うこと。仏さまの「智慧」の光にだっこされている安心をいただいて、これからもはげんでいきましょう。



だっこだっこあみだっこは、毎月東山浄苑東本願寺で開催している「親子仏法の集い」の活動内容をもとに編集しています♪

## 親子仏法の集い-仏法に親もう 土に親もう!-つてなあに?



毎月第3日曜日(行事等で変更の場合あり)に、東山浄苑東本願寺の菜園で行っている親子向けの活動。なんでもありがたいとあって、粗末にしない-古きよき日本人を育てた仏教の教えです。家族で野菜づくりや年中行事に親しみ、「いただきます」「ありがたい」の豊かなこころを育てましょう。乳幼児から中学生までのお子さんご家族はどなたでも参加できます。(ただし、子ども奉納会への参加は満4歳から12歳まで)お気軽にお尋ねください!



【活動日】毎月第3日曜日 ・1~4月度は変則 【場所】東山浄苑東本願寺  
・詳しくは下記のとおり

※ベビールーム完備 ※屋内無料駐車場完備 ※参加ご家族30組限定

★お問合せ・参加のお申込みは★

東山浄苑東本願寺 総合受付

電話 075-541-8391 毎日 9:00 ~ 17:00



### 一参加者募集中! 今後の親子仏法の集いご案内一

**4月2日(日)**

10:00~12:00

子ども奉納会(嘆仏偈【お経】のおつとめ)練習

**4月23日(日)**

10:00~12:00

子ども奉納会リハーサル

【場 所】東山浄苑東本願寺内 嘉枝堂本堂

【参加費】●花まつり子ども奉納会に参加する方...今年度の子ども奉納会参加者募集はしめきりました ※お稚児さんは引き続き募集中です♪

**●5月の親子仏法の集いは 5月21日(日) 10:00~12:00 開催!**

晴: 菜園活動 雨: 扇子づくりなどを行います! お楽しみに♪

(初回参加無料/1家族1ヶ月1,000円)

※参加ご希望の方は事前にお電話でお申込みください。

※野菜の生育状況などによって、活動内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

※雨天の場合は、お念珠づくりなど室内企画を行います! お楽しみに♪



平成29年4月29日(土・祝)

花まつり 申込受付中

お稚児さん募集

○対 象: 満2歳~12歳 ○定 員: 限定100名

○参加費: 6,000円

☎075-541-8391 東山浄苑東本願寺

だっこだっこあみだっこ 平成29年3・4月号

平成29年3月10日発行 発行・印刷/東山浄苑東本願寺 〒607-8461 京都市山科区上山旭山町8-1 電話 075-541-8391

無料